

様式 1

研 修 (研 究) 報 告 書

令和² 年 3 月 31 日

玉名市議会

議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 近松 恵子 

下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参 加 議 員	近松 恵子		
日 時	平成 元 年 5 月 9 日 (木) ~ 平成 元 年 5 月 10 日 (金) 午前・ 午後 13 時 00 分 ~ 午前・ 午後 15 時 25 分		
場 所	剛 治 大 学	参加者数	33 名
研修(研究)事項	日本自治創造学会 研究大会		
概要及び所見	別紙.		

研修報告書

全国から300名近い市議会議員と11名の県議会議員、9市町長、12名の自治体職員の参加のもと、「新時代！地方はどう生き残るか」をテーマに大会が開催された。基調講演が穂坂元志木市長、片山元総務大臣からなされた。基礎自治体とはどうあるべきか、ということ、また国の政策は本当に地方の活性化に役だっているのか、と検証してみること、そしてその声をあげていくことの必要性をお二人とも言葉を変えながら力説された。

確かに、職員が見ているのは、市民ではなくて国の動向、指示、補助金であると感じることが多い。

合併はしたが、地域のつながりというものは失くしてはならないし、そのための仕掛けをしていくことがこれから非常に大切になると感じた。

各論として、

地域ビジネスを成功させる智恵と実践

竹井 智宏

地方はチャンス 1粒1000円のライチの奇跡

斎藤潤一

少子高齢化を乗り切る取り組み

斎藤健（衆議院議員）

SDGsと地域循環共生圏

中井 徳太郎

日本の課題を可能性

村上 由美子（OECD 東京センター長）

スポーツが持つ力を地域活性化

藤江陽子（スポーツ庁審議官）

日本が売られる一自治体は最後の砦 堤 美果（国際ジャーナリスト）

などの講演があり、また、改革発表会もあった。

合併により自治体が大きくなり、市民と政治、行政との間が乖離されているように感じる昨今、民主主義の原点に戻り、依存から協働へ、とここにエネルギーを集中することから、地方の活性化は始まるのではないかと感じた学会であった。

先進地（現地）調査報告書

令和 2 年 3 月 31 日

玉名市議会

議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 近松 恵子 

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	作本 幸男、西川 裕文、 古奥 俊男、坂本 公司、近松 恵子
日 時	平成 元年 8 月 27 日 (火) ~ 平成 元年 8 月 29 日 (木) 午前・午後 7 時 22 分 ~ 午前・午後 6 時 56 分
調 査 先	名張市役所、多気町役場、栗貞町役場
調 査 事 項	ゆめが丘) 地域子育て支援 石張版ネラぶうについて 高校主として 奨励支援室に付
調査先面会者	通市石張市長他 4 名 栗貞町 多気町 課長、 奨励支援室長
概要及び所見	別紙。

調査報告書

① 名張市 ゆめづくり地域予算制度、名張版ネウボラについて

合併し自治体が大きくなったことで、我が町のことは我らで、の意識が低下し、行政に依存的になりまちづくりの主体から観客的立場に市民の意識が移行しているように感じる昨今、地域づくりの先進地である名張市におけるまちづくりの実践を学びたく、視察研修をさせていただいた。

名張市では、区長制度を廃止し、公民館も市民センターとして地域づくり組織に委託管理させ、地域づくり活動、生涯学習活動、地域福祉活動の拠点として機能させるなど画期的な事業を展開しておられた。またその活動資金としては、活動支援事業に交付金を全体で1億600万円もの予算が配分されてあった。住民に地域のことを任せただけではなく、市役所も、「まちの保健室」を小学校区ごとに設置し、地域住民との連携体制ができていた。

また、妊娠、出産までの切れ目のない支援をしていく名張版ネウボラについてもこの地域づくりが核となり、全世代型地域包括ケアのシステムが出来上がっていた。地域がどのような形で、高齢者や子ども、子育て世代を守っていくのか、という青写真が市長の胸の中にあってこのようなものができたに違いないと感じた。これは、市長が職員、県議、市長と色んな立場で経験されたことが土台にあってできたものと思う。市の財政が厳しくなる玉名市においても、やる気のある市民一人一人を信じて、市民を交えた総合的なまちづくりを計画していかなければならないと思った。

② 高校生レストランについて

高校生が地元の食材を使って料理を提供するレストラン、というイメージを持っていたが、生徒が仕入れから献立、調理、経理、接客までこなす、というこの調理学校でも学べないプログラムであった。これは指導されてきた熱血先生のお力であり、そのパワーには恐れ入った。日本はまだまだ学歴社会だが、子どもたちに、このような一流の職業教育を早くから受けることができる場が沢山あったら、どれだけの子どもが夢に向かって学んでいけるだろうにと思った。やはり指導者の力であり、我が身を忘れても全力で成し遂げようとする人は大切にし、応援していかななくてはならないと思う。

③ 東員町

人口2万5千人の町であるが発達支援室を設けてある。玉名市でもこの10年で3倍にも増えているという現状をしっかりと見つめるなら、市が中心となって取り組むべきであると思う。この小さなまちが人もお金も使って、障害をもつ子どものために責任を持って支援体制を作っていることに驚いた。今回の視察研修では、どこの自治体も独自の考えでまちづくりを展開しているところがとても勉強になった。

様式 2

先進地（現地）調査報告書

令和 2 年 3 月 31 日

玉名市議会

議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 近松 恵子 ⑩

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	作本幸男、西ツ裕文、古奥俊男、坂本公司、近松恵子
日 時	¹² 平成 2 年 2 月 19 日（水）～ ¹² 平成 2 年 2 月 21 日（金） 午前・午後 7 時 22 分 ～ 午前・午後 3 時 35 分
調 査 先	小 沢 市役所、若狭町役場
調 査 事 項	スート農業 食育の取組 かみなか農業会
調査先面会者	農林水産課長 親光未来創造課特産振興室 文化館館長 主査 かみなか農業会
概要及び所見	別紙。

調査報告書

小浜市 ①スマート農業

スマート農業については、玉名市でも取り込んでいるところであるが、小浜市は、規模が大きく驚いた。まず基盤整備率が90%を超えていること、さらにその規模の大きさに驚いた。やはり原発がいくつもある県であるだけに、基盤整備の個人負担が5%と少ないことが整備率の高さに繋がっているのかと思った。単に無人ヘリコプターで農薬をまく程度のスマート農業ではなく、肥料が収量にどの程度効果を見せているかなどについても分析するものであり、これからの農業経営には欠かせないものと思ったが、何よりも農地の集積を先にすすめなければ省力化には取り組めないとさらに感じた。

②食育の取り組みについて

何よりも感動したのは、担当職員の熱意であった。そして小浜の食育の基礎を作ったのは、農業改良普及員出身の市長であった。どこに視察に言っても、核となるのは、市長や職員の熱意、思いである。食文化館も素晴らしかったが、小浜市は、各小学校に給食室があるため、学校給食の食材（野菜）は地元の方の新鮮な野菜を使っているということだった。また、食文化館の調理室は、就学前の子どもたちも体験できるように調理台を移動できるように作っており、それはとても参考になった。岱明地区での公民館の調理室に反映させたいと思った。また、給食に無農薬のお米を使っていることも羨ましいことであり、玉名市も考えていかなければならないことと思った。

③若狭町 かみなか農学舎について

農業の担い手をつくり、また定住者を増やしたいという思いで、現町長が職員時代に取り入れたものと伺った。本当に丁寧に、農業者になれるよう指導し、独立までのお手伝いをしてくれる施設であり、これだけのメニューを持っているのは全国的にも珍しいのではないかと思った。定住する人も多く地域も活性化しているようであった。何より1時間で京都まで行ける、という地の利の良さが、「儲かる農業」に繋がっているように感じた。同じ農業でも、豊かな人が多く住む大都市近郊では、自然栽培野菜などは高く売ることができるという利点がある。農業法人ができてからは、各地で働きながら学ぶ人も出てきたため、この施設に来る実習生もやや少なくなってきたようだった。

この事業を支えるために、体験事業にも取り組んでおり、都会暮らしの方のために、草取り体験から餅つき、田植え、稲刈りなど種々のコースがあった。玉名にも体験できることは種々あるので、体験型観光として売り出してはどうかと思った。